

第9回「日本人学生の『アジア体験』コンテスト 実施報告

1. 総 評

2001 年 1 月、当財団設立 5 周年の記念行事として初めて開催した「日本人学生の『アジア体験』コンテスト」、第 9 回を迎えた今年は日越外交関係樹立 35 周年記念にあたり、昨年度に引き続き「ベトナムで体験したいこと」をテーマに企画書を募集しました。

「日本人がアジアについて考え、実際に体験することで、アジアに対する理解を深めてもらいたい」というこの事業の原点に返り、昨年度よりコンテストの形式を大幅に変更しました。学生が自分の力でより深くアジアを理解し、夢を実現できるチャンスを与えたい、また当財団はこのコンテストを通じ学生の自由な発想や積極性を尊重し応援したいと思います。

今回、「夢・アジア体験賞」に入賞した 4 名（大学院生 2 名、大学生 2 名、）には入賞賞品として企画実現のための 30 万円が授与され、2009 年 3 月 31 日までに各自の企画を実現し、レポートを提出していただきます。

入賞者の企画は各自の経験に基づくものやそれぞれの知識や専攻に関連したもので、それに自分の思いや夢を絡め、またその経験をどのように今後につなげていくかという点で優れており評価されたのだと思います。今回の入賞者 4 名の内 2 名は昨年度も応募されていた方でした。諦めないこと、また企画書をより充実させて挑戦されたことが、実を結びました。今回惜しくも入賞できなかった学生諸君にも、その思いや夢を諦めることなく、企画を実現できるように努力し続けてほしいと思います。

入賞者の皆さんには企画実現を通じて、ベトナムでのご活躍を期待しています。

2. 実施内容

①表彰日時：2008 年 8 月 9 日（土）13：00～13：30

②開催場所：株式会社 共立メンテナンス 会議室（千代田区外神田 2-18-8）

③主 催：(財) 共立国際交流奨学財団

後 援：文部科学省、外務省、駐日ベトナム大使館、産経新聞社

協 賛：(株) 共立メンテナンス

④審査員

審査委員長	須郷 進	中央工学校専務理事、当財団奨学金選考委員会委員長
審査員	越前谷明子	東京農工大学国際センター教授、当財団奨学金選考委員会委員
	横田 淳子	東京外国語大学留学生日本語教育センター教授

⑤入賞者：4 名（大学院生 2 名、大学生 2 名）

3. 入賞者（4名）と企画概要 報告

テーマ「ベトナムで体験したいこと」

①林 浩之 （慶應義塾大学 商学部）

テーマ：金融市場の規制状況調査と外資系企業の進出によるベトナム経済の発展の可能性

ベトナム経済の市場の開放度を見るため、外資系企業の進出状況や投資環境の整備状況を自分の目で見たい。証券取引所・証券会社の見学、外資系企業のベトナム進出状況調査と現地のコンサルティング会社訪問、将来性・財務健全性を重視しベトナムの優良企業を訪問したい。

②永山 友子 （東京医科歯科大学大学院 インプラント口腔再生学分野）

テーマ：第二回ベトナムでの地域歯科医療

昨年度入賞したベトナムでの歯科医療についてまとめた先輩の活動を引継ぎ、少数民族の住むサパで小学校・中学校で紙芝居を使って予防教育活動を行いたい。現地で配る歯ブラシ、歯磨き粉、筆記用具を、企業から寄付を募り、歯科医院から集めたいと思う。

③上野 俊行 （東京大学 大学院 総合文化研究科）

テーマ：障害を持って生きるということ

重度障害者生活を送る自分の経験を生かし、ベトナムにおいて障害者の社会参加を、障害者や支援者らと共に考え、環境作りに役立てたい。ベトナムの障害者との交流、日本の現状の紹介、福祉機器の情報提供と介助器具の寄付、以前使っていたノートパソコンの寄付を計画している。

④玉田 智子 （広島大学 医学部）

テーマ：私の30万円の使い道―ベトナムの子供たちのために未来へつづく支援を―

ベトナムの孤児院でのボランティア、小学校や養護学校、枯葉剤の被害者のための施設訪問の経験を元に、海外からの支援を受けられない施設の教育や就労訓練の環境を改善したい。またベトナムの大学生が進めている山間部の貧しい村を支援する計画の支援、医療関係者に枯葉剤問題を中心についてインタビューをおこないたい。



後列左より永山さん、林さん、玉田さん、上野さん

前列左より共立国際交流奨学財団 三橋事務局長、須郷審査委員長